

野球とクリケットの比較研究ーアジアにおける伝播過程中心にー

A comparative study of baseball and cricket. -Focusing spread processes in Asia.-

1K04B163-6

長野 章人

指導教員

主査 志々田文明先生

副査 石井昌幸先生

動機・目的

2 年前に会った父の友人でもあるバングラディッシュ人の友人Aに、昨年久しぶりに再会した。その際野球に熱中している従兄弟を見た A に「日本人はベースボールが好きなようだが、クリケットは全くやらないのか？」と聞かれた。Aの話によると、かつてインドをはじめとするイギリスの植民地だった南アジアの地域ではクリケットは国民的人気スポーツだという。なるほど、改めてよく考えてみると、なぜ日本人はこれほどまでに野球がすきなのだろうか。全てのアジア諸国を含めても野球に人気があるのは、日本、韓国、台湾、そしてせいぜい中国の極東アジアだ。

韓国、台湾には植民地時代に日本から伝わったとすれば、気になるのはなぜ日本に野球が広まったのかである。明治維新後日本が、制度、文化とあらゆる点で手本にしたのは、日本と同じ島国で、当時国土の何倍もの植民地を持ち、世界の頂点に君臨していたイギリスだったはずである。そうすると日本にもクリケットが広まってもおかしくは無いはずだ。数ある先行研究を見てみてもこの「野球がなぜ日本に広まったのか」という問題に対する答えはまちまちである。そこで本研究では、以下のことを目的とした。

- 日本野球はどこから始まったのか。
- なぜ日本で野球は普及し、クリケットは普及しなかったのか。
- 野球はこれからどのような道をたどるのか(予想)、また、どのような道をたどるべきか(あり方)。

方法

本研究は文献研究である。主に依拠した次の5点の史料を中心に展開する。

- スポーツの伝播・普及 (中村敏雄編 創文企画)
- スポーツと帝国-近代スポーツと文化帝国主義-(アレン・グッドマン著、谷川稔・石井昌幸・池田恵子・石井芳枝訳 昭和堂)
- 台湾野球史 (湯川克雄編 台湾日日新報社運動具部)
- 韓国野球の源流-玄界灘のフィールドオブドリーム- (大島裕史著 新幹社)

- 日本野球史 (国民新聞運動部編 ミュージアム図書)

考察

インドにおける伝播と普及は必然というわけではなかったようである。インド統治のために現地人の趣味と習慣のイギリス化を促進する上でのクリケットの潜在能力にいち早く目をつけ、インドにクリケット場と現地人チームを作ることを推奨する等した、「インド副王」たちの働きがインドにおけるクリケットの伝播・普及に大きな影響を与えた。

中国、朝鮮において、これまで野球は日本の植民地時代に伝わっていたと思っていたがそれぞれ独自の伝播過程を持っていることがわかった。その担い手となったのはアメリカ人宣教師と海外への留学生であった。台湾においては日本の影響がかなり強いようである。それぞれの国の野球は日本へのライバル意識、日本の枠組み等を通して独自に発展していくものもあったが、時代の波の中で消えていくものもあった。

日本における野球の伝播について大きな功績を残したのが「お雇い外国人教師」と留学生であり、普及に大きな役割を果たしたのは「学校」と「新聞」であった。ここで重要となったのがお雇い外国人たちが就いた仕事である。日本政府は各分野に専門の外国人を選ぶ、それが野球とクリケットの勝負のひとつの大きな分かれ目となる。

結論

様々な外来物が明治初期日本に普及した最も基本的な条件として当時の文明開化の思潮が挙げられる。野球特有の条件としては伝播が多発的且つ継続的に行われたことと、用具の手軽さが重要であった。その担い手となったのはやはり、お雇い外国人と留学生であった。そして普及に大きな役割を果たしたのは「学校」と「新聞」であった。

野球はこれからよりグローバルに物事を考えなければならないようになる。日本野球のすばらしさを積極的にアピールし、大リーグに負けない力をつける努力をしていくことが今後の日本野球界には必要である。